

DNA に刻まれた神の言語

遺伝学者が神を信じる理由



フランシス・コリンズ 著 中村昇・中村佐知 共訳

なぜ宇宙は存在するのか、人間の存在意義とは何か——人類の存在に関する「深遠な問い」をどう考えるのか。科学と信仰、相容れないとされる両分野から、互いの視点を知的に統合する道を探求し、「見える世界」と「見えない世界」の調和を考える。2008年に刊行された『ゲノムと聖書』の新装改訂版。

もくじ

- 第Ⅰ部 科学と信仰の亀裂** 第1章 無神論から信仰へ／第2章 せめぎあう二つの世界観
- 第Ⅱ部 人間の存在に関する大いなる疑問** 第3章 宇宙の起源／第4章 地球上の生命—微生物と人間について／第5章 神聖なる解説書を読み解く—ヒトゲノムから学んだこと
- 第Ⅲ部 科学への信仰、神への信仰** 第6章 創世記、ガリレオ、ダーウィン／第7章 無神論と不可知論—科学が信仰に勝るとき 選択肢1／第8章 創造論—信仰が科学に勝るとき 選択肢2／第9章 インテリジェント・デザイン（ID）—科学が神の助けを必要とするとき 選択肢3／第10章 バイオロゴス—科学と信仰が調和するとき 選択肢4／第11章 真理の探求者たち
- 解説—教会は進化論とどう向き合うか

フランシス・コリンズ

米国の遺伝学者、医師。エール大学より物理化学博士号、ノースカロライナ大学より医学博士号を取得。エール大学で人類遺伝学の特別研究員、ミシガン大学で内科学と人類遺伝学の教授を経て、米国国立ヒトゲノム研究所の所長（1993～2008年8月）に。在任中には国際ヒトゲノム計画の代表も務めた。2009年に米国国立衛生研究所（NIH）長官就任（2021年退任）。全米科学アカデミー及び医学院会員。嚢胞性線維症、神経線維腫症、ハッチンソン・ギルフォード早老症候群、二型糖尿病ほかさまざまな遺伝性疾患の疾病遺伝子の発見に関わるなど、遺伝医学における業績は多く、関連分野でのリーダーとしての貢献も大きい。2007年にはアメリカで文民向けの最高位の勲章である大統領自由勲章を受賞。ギターを弾き、オートバイに乗り、同僚を楽しませるために替え歌を作ることを趣味とする。

四六判 360頁 定価2,200円（本体2,000円＋税）
ISBN978-4-264-04348-5 C0016
いのちのことば社 卸コード06680